

北九州PCB処理事業所トラブル事象一覧（令和2年1月～7月）

| No. | 発生日時            | 発生場所                                 | 概 要   | 対 応 状 況  |
|-----|-----------------|--------------------------------------|---|--|
| 1   | 3月23日<br>17時58分 | 2期2階<br>高濃度分析室<br>No.10ドラフト<br>チャンバー | <p>分析作業員が、講習会で使用したステンレス缶に入った廃SD剤の残渣を失活（ナトリウム成分の不活性化）させるため、通常の手順に基づき水を少量ずつ添加していたところ、廃SD剤中のナトリウムと水が反応して一瞬発火した。</p> <p>その際、ステンレス缶の隣りでメタノールを含んだ失活済みの廃SD剤をろ過処理しており、ろ紙とろ紙を使用していたキムタオル（紙ウエス）に引火した。</p> | <p>分析作業員は消火器で直ちに消火し、負傷はなかった。消火作業中に火災報知器が発報したため、中央制御室で119番通報するとともにプラズマ溶融炉を保持運転に移行した。公設消防にて鎮火を確認後、19:50に溶融炉の保持運転を解除して通常溶融に復帰した。</p> <p>直接の原因は、可燃物であるキムタオルの隣で発火の可能性がある廃SD剤の失活作業を行ったことであった。加えて、講習会で使用した廃材の処理状況が関係者間で共有されず、また、最終的にどのように処理するかが明確でなかった、という管理面からの課題が大きいと判断している。</p> <p>対策として、①可燃物の隣での失活作業を禁止することの教育、②風化防止のため、原因、対策及び状況写真を掲載した表示の発生箇所への掲示、を実施した。また、今後、廃SD剤の処理については、SD処理の実績を十分に有する業者等に依頼する方針。さらに、外部講師による実技講習会に係る作業も関係者間で事前打合せをしっかりと実施する。</p> |



ドラフト全体

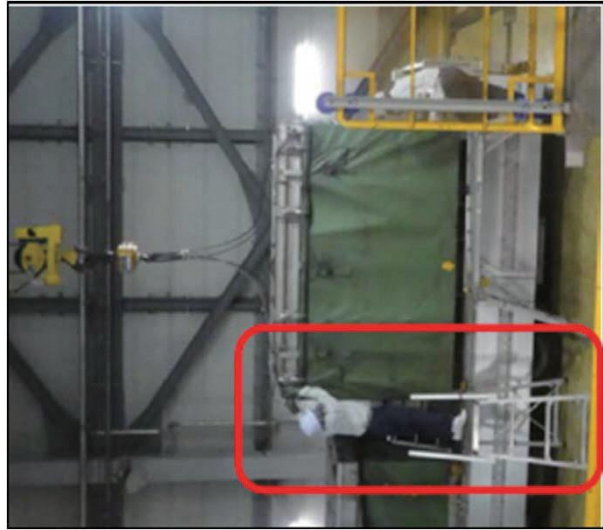


①キムタオル ②ステンレス缶

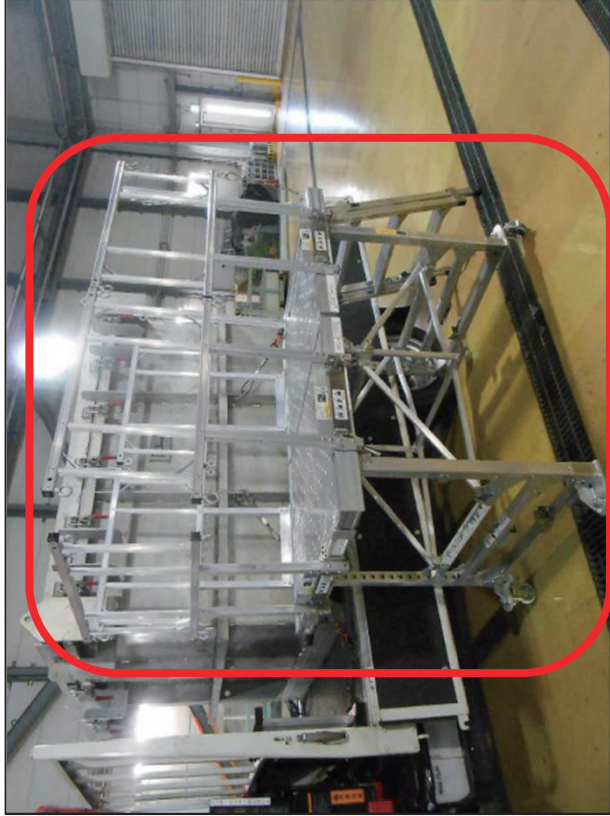
拡大

# 北九州PCB処理事業所 トラブル事象一覧（令和2年1月～7月）(続き)

| No. | 発生日時                                     | 発生場所 | 概 要  | 対 応 状 況  |
|-----|--|------|--|--|
| 2   | 7月9日<br>2期1階<br>受入室<br>11時00分<br>No.2レーン |      | 安定器入りのコンテナの荷役作業中、吊り上げ用の部品（ボルト）を床に落とした受入作業員が、落とした部品を確認しようとして振り向いた。<br>その際にバランスを崩し、高さ1mの作業台から床に足から落下した。（右ひざじん帯の断裂で3週間の休業見込み） | 被災者に外傷や出血はなかったが立っていない状況であったため、救急車で病院に搬送した。<br>検査の結果、右膝蓋腱（みぞがつがいけん）断裂であることが判明した。<br>原因は、①作業台の上でバランスを崩したこと、②作業台の上面が40cm×50cmと狭く、かつ、落下防止用の柵が無かったこと、であった。<br><br>対策として、①足場セット、搬送容器への玉掛け（物を掛け外しする作業）等の一連の作業手順の際の落下防止に関する安全教育を「荷役作業時における墜落・転落防止のための安全マニュアル」（厚生労働省・都道府県労働局・労働基準監督署発行）により実施。②防護柵を設けたより大きな作業台（110cm×175cm）を6台導入する。③導入に合わせて新作作業台に対応した作業手順書に改訂する。 |



発生時の再現状況



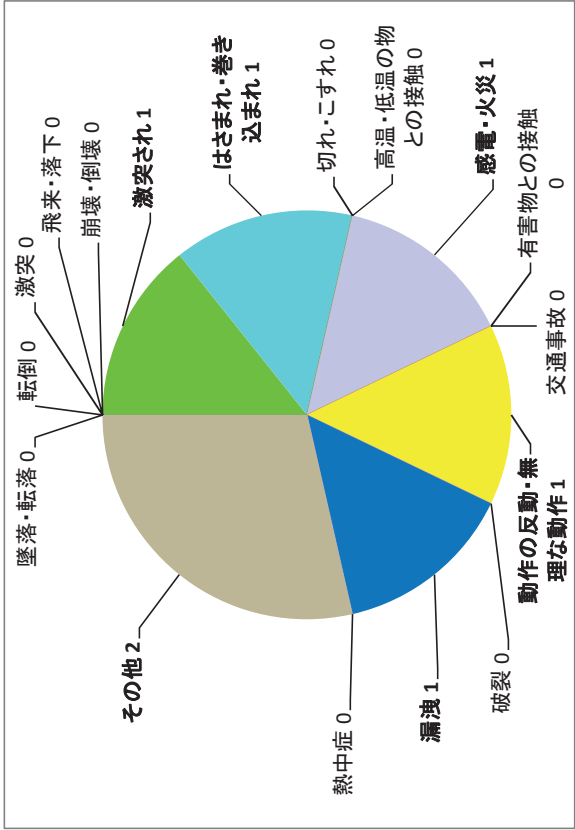
防護柵を設け作業台の上面をより大きくした作業台

# ヒヤリハット件数（令和元年8月～ 令和2年7月）

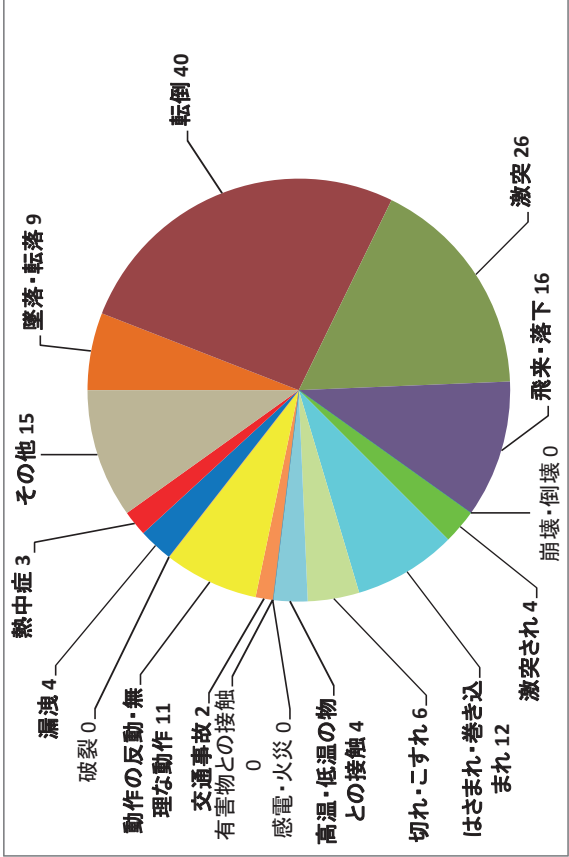
令和2年7月末時点

| 年   | R 元年 |    |     |     |     | R 2 年 |    |    |    |    |    |    | 小計  |
|-----|------|----|-----|-----|-----|-------|----|----|----|----|----|----|-----|
| 月   | 8    | 9  | 1 0 | 1 1 | 1 2 | 1     | 2  | 3  | 4  | 5  | 6  | 7  |     |
| 実体験 | 1    | 0  | 1   | 0   | 0   | 1     | 1  | 0  | 1  | 1  | 1  | 0  | 7   |
| 仮想  | 14   | 12 | 12  | 13  | 14  | 13    | 12 | 11 | 10 | 12 | 10 | 19 | 152 |

”実体験”は、提案者が現場で体験してヒヤリ・ハットした事象であり、”仮想”は、提案者が現場で、もしかしたら発生するのではないかと考えた事象。



実体験ヒヤリハット



仮想ヒヤリハット